

過越の祭と十字架

2010年3月28日 アシェル・イントレーター

3000年以上前、神は出エジプト時にご自分の民を創り出しました。紅海を渡った人の数はユダヤ人、エジプト人、信者、未信者含めて約3百万人を越えました。その時まで、神は家族や部族集団を持っていましたが、一つの民族を持ったことはありませんでした。

解放される権利を得るために与えられたのは過越の小羊の犠牲でした。彼らが出て行く時、かもいと門柱に塗られた血を実際に通って行きました(出エジプト 12:22-23)。彼らが荒野で旅を始めた時、彼らは犠牲を何度も何度も捧げるよう命じられました。彼らの全存在は血の捧げものという主題を中心としていましたが、なぜそうなのか十分な意味は彼らには与えられていませんでした。

メシアニックジューとして、私たちにとって血の捧げものの重要性は、エジプトから解放された民と同じぐらいに私たちの存在の中心です。違いは私たちには犠牲の意味が与えられており、動物犠牲を盲目的に服従して行うものではありません。事実として、神は私たちのためにそのひとり子、メシアを犠牲にされるほど私たちを愛して下さいました。神の犠牲的な愛の真実は、私たちを永遠に自由にして下さるのです(ヨハネ 8:32)。

過越の祭の時、イエシュア(イエス)が十字架に架けられたのは偶然ではありません。過越の祭はメシアを犠牲にするというみこころによって、初めから決められ、決心されていたものなのです。過越の祭は、メシアの死と復活という偉大なるみわざによって、土台が作られているのです。イエシュアその目的のためにこの世に来られたのです(ヨハネ 12:27)。過越の祭と十字架は、以前から決められていた出来事なのです。

門柱とかもいの血は十字架のしるしを表しています。扉は十字架であり、十字架は扉です。私たちは血のついた扉を私たちの父祖たちが通り抜けたように、イエシュアの十字架を通り抜けるのです。メシアの十字架を通して、神は出エジプトで行ったように、再びご自分の民を創り出したのです。私たちは罪やサタン、死と破壊から自由へと出て行くのです。

イスラエルにいる、過越の祭の間家族と共に過越の食事を取る多くのメシアニックジューのためにお祈り下さい。私たちの民がマツツァ(訳注:種なしパン)や苦菜などの伝統だけを認識するのではなく、メシアの真実と主の苦しみを認識できるように!どうかこの土曜日、エルサレムにある園の墓でメシアニックジューとアラブ・クリスチャン共同の復活祭のお祝いをお祈り下さい。

イスラエルに対する米下院議員の支持

今週ワシントン DC において、327 名の下院議員(全下院議員の 3/4 に相当する)はイスラエル支持を表明する手紙に署名をしました。以下は手紙の主要な部分の抜粋です。

アメリカ合衆国とイスラエルは友好的同盟関係にあり、両国民は民主主義、人権、報道と宗教の自由を含む核となる価値観に対し、共にそれを守るという深い、不変の友好関係を有している。我々はテロリズムに戦いを挑み、重要な戦略的関係を共有するパートナーである。

強いイスラエルはアメリカ合衆国の安全保障の資源であり、それは中東の安定をもたらすものである。我々は両国関係の緊張がひんぱんに報道されていることを懸念しており、それはアメリカとイスラエルが共有する利益を促進するものではない。

両国の関係の強化こそ、実際にアラブーイスラエル人の和平合意を可能とするものであり、イスラエルを破壊しようとする者がそのような望みを放棄させるものであり、歴代のイスラエル政府が和平のためにリスクを承知で行動する自信を与えるものである。

62年前にイスラエルは独立宣言の中でこう述べた。「我々はすべての近隣諸国とその民に手を伸ばし、和平と善隣友好政策を提供し、自治権を持つユダヤ人が自分の土地に住む上で相互扶助による結び付きを構築するよう呼びかける。」

それから数十年が経ち、常に攻撃から自国を防衛しなければならない状況にありつつも、イスラエルは近隣諸国と和平を達成するために痛みを伴うリスクを取ることであり、その誓いを保持し続けている。

最近イスラエルを訪問した副大統領が述べたように、「中東で起こっている経緯について、皆が知っているように、国家安全に関してはアメリカとイスラエルとの間には何の隙間もない。まったく隙間はない。」

我が国とイスラエルは非常に緊密ではある一方、様々な大なり小なり双方の問題に関して違いがあることを我々は認識している。そのような違いは長期に渡る戦略的同盟にふさわしく、信頼と自信を持って静かに解決されるのが最善であると我々は見ている。

オバマ大統領が述べたように、我々の中東政策において「イスラエルの安全は最重要である」そして、「それはアメリカ安全保障の関心の中にあり、独立したユダヤ人国家としてのイスラエルの安全が維持されることを保証するものである」と我々は信じている。

テル・アビブにいるメシア

ここ数週間、イスラエルの新聞にテル・アビブの「メシア」と自称する人物について見開き一面の広告が載りました。その人物は自身をメシアと言うだけでなく、神の代わりに第一人称で語っているの

です。彼は、ネタニヤフ政権が最後の政権であると述べ、次の政権は彼の政権、すなわちメシアの政権になると述べています。

彼は、ゴグとマゴグの戦い(訳注:エゼキエル 38 章に述べられている大いなる戦争のこと)は迫っており、すべての国はすでにイスラエルに対する大規模な攻撃を行うための準備を整えていると述べています。彼はたくさんの御言葉を引用し、特にヘブライ預言者たちの言葉を引用しています。彼はまた破壊を避ける唯一のことはラビ的伝統に従い、彼がメシアであると信じることだと述べています。

マタイ 24:24

にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。

この人物にははっきりとした追従者はいませんが、彼が述べたような怒りの預言は、多くの国々が一致してイスラエルを非難するのを私たちが見た時に現れます。そしオバマ政権とイスラエルとの間で緊張が見られた時にも現れます。これからの歲月、イスラエルでメシアと自称する者が現れるという現象が多くなります。私たちが終わりの時の預言が成就するのを見るにつれ、メシアが来るという期待は熱気を帯びるのです。